

- 1 件 名 第6回アリーナ整備検討会議
- 2 日 時 令和7年11月12日(水) 15:00～16:30
- 3 場 所 本庁舎3階 第三会議室
- 4 会議内容

---

【15時 開会】

(司会)

それでは定刻となりましたので、ただいまから第6回アリーナ整備検討会議を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

司会を担当いたします、岡山市スポーツ文化部の宮本と申します。よろしくお願いいたします。

なお、岡山商工会議所の組織改編により、今回の検討会議から、スマートベニュー構想実現委員会委員長の延原様に代わり、岡山商工会議所副会頭／アリーナ等建設推進特別委員会委員長服部俊也様がメンバーとなりました。

なお、服部様は本日ご欠席のため、代わりに岡山商工会議所森副会頭が出席されておられます。また、岡山西リベッツの羽場代表取締役がご欠席のため、白神宏佑総監督が出席されております。

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

まず、本日の次第、次に、アリーナ整備検討会議のメンバー表、次に配席表、次に資料1と記載しております、アリーナ整備事業紹介動画について、資料2と記載がございます、岡山市アリーナ整備計画概要(2025年11月時点)の資料でございます。次に資料3、アリーナ整備事業の財源計画とその解説資料、資料4、アリーナ整備にかかる寄附の状況について、以上となっております。

すべての資料がお手元にありますでしょうか。

それでは、開会にあたり、座長の大森岡山市長からご挨拶を申し上げます。

(大森座長)

皆さんこんにちは。大森でございます。

今日はお忙しい中、第6回のアリーナ整備検討会議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

昨年の8月から始まったこの会議も6回目となりました。いよいよ整備の方向性が固まりつつあるという感じがしているところであり、今回の会議ではまず、事業への理解促進のために作成いたしました動画を見ていただきます。

次に、現時点での整備計画の概要についての説明をさせていただきます。

少し、警察などとの協議も整って、中の配置も少し変わってきますので、そのあたりも説明させていただきます。

そして、寄附金の募集状況についてご説明申し上げたいと思っております。

寄附金の募集に当たりましては、商工会議所の松田会頭を初めとして、トップチームの皆さん方にも随分ご尽力をいただきました。本当に心から感謝を申し上げたいと思います。

今日は、各担当の方からその話もしていただければと思っているところであります。

そしてその状況を含めて、これからどのようにしていくか、またご議論をいただければというように思っているところであります。

この、岡山の未来を創り出すアリーナ。この実現に向けて、いよいよここが、私はもう正念場ではないかと思っている次第であります。

本日も皆さん方の忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは続きまして、副座長の岡山商工会議所、松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。

松田会頭、お願いいたします。

(松田副座長)

皆さんこんにちは。

第6回目ということで、先ほど、市長から正念場だというお話がございました。私ども商工会議所も、今年選挙イヤーに当たっておりまして、選挙が終わった後、私が会頭として再任されました。

そして副会頭として、6人体制と、かつてない大きな体制をとっております。

それというのも、今後、各分野にわたって特徴がある、実行していかなくてはならない各種の分野で、それぞれ副会頭が実際に動いてもらうという体制を取りたいがために、そういったことになりました。

そして、今日の会議で関係のある会議体として、アリーナ等建設推進特別委員会というのを作りました。

これはアリーナの建設の推進、それからスポーツ産業の活性化、北長瀬周辺エリアの活性化を目的とする委員会でございます。これ担当の副会長が高谷副会頭で、そして、服部副会頭が委員長を務めるとい、服部副会頭はさらに、トップチームの支援として、ファジアーノ、シーガルズ、トライフープ、リベッツとBMX。そして新スタジアムについても、建設の支援、そしてスポーツ産業の活性化、スポーツの観客の動員をするという、こういった役割を持つスポーツ関係の委員会でございます。そういった分野での特殊性を持った委員会構成になっております。

商工会議所としては、このアリーナ建設について推進していきたいという思いを委員会の中でも込めておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

それではこれより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

それでは、大森市長、議事の進行をお願いいたします。

(大森座長)

はい。それでは、私が進行させていただきます。

まずはお手元の資料の次第に沿いまして、(1)PR動画について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

スポーツ振興課の吉田です。

それでは、PR動画についてご説明いたします。

このPR動画は、岡山市が検討を進めておりますアリーナ整備事業について、その必要性や意義、アリ

ーナがもたらす様々な効果について、皆様にわかりやすくお伝えすることで、実現に向けた機運の醸成を図るために作成したもので、動画公開の際には、皆様にもご連絡させていただいておりますが、本日改めて1度ご覧いただきたいと思います。

～ 動画公開 ～

ありがとうございました。

現在、岡山市では、この本編動画に加えて、スポーツ・ライブ編、ビジネス・イベント・エンタテインメント編、愛着・誇り編と題しまして、1分程度の短編動画を3本作成しております。

今月中の完成を目指しておりますので、完成次第、改めて皆様にはご案内させていただきます。

なお本日の動画につきましては、お手元の「資料1、アリーナ整備事業紹介動画について」に記載されております2次元コードを読み込んでいただくとご覧になれますので、またの機会にご使用ください。

現在、市の広報媒体による発信や、トップチームの試合会場で上映しておりますが、皆様方におかれましても、本動画をご周知いただき、本事業の実現に向けた機運の醸成にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

(大森座長)

はい。ありがとうございました。

時々、アリーナの話をしていると、どうも、なんというか従来の体育館と誤解しておられるような気がいたします。

今も大勢の方、頷いておられるわけでありまして、我々が今、整備しようとしているアリーナのイメージ、なかなか口頭では伝わっていかないということもあって、こういう動画を作成させていただいたわけであります。

ぜひ、拡散をこのメンバーからもお願いをしたいというところであります。

まずはこの動画に関して、ご発言ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは続きましてアリーナ整備計画概要について。

これまでの検討経過を踏まえて、事務局にまとめてもらいました。

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

事務局よりご説明いたします。

お手元の資料2、岡山市アリーナ整備計画概要(2025年11月時点)をご覧ください。

こちらは、令和6年4月に策定いたしました基本計画の概要版、こちらをもとに、令和7年4月に公表いたしました追加調査結果等の情報を加えて、現時点での計画概要のまとめとなるものでございます。

なお本日ご説明いたします内容は、これまでの検討会議においてご報告している内容と重複しますので、簡略な説明とさせていただきます。

それでは表紙をめくっていただき、1ページ目。

NO.1、計画策定の背景についてです。

こちらは従前から変更はありませんが、アマチュアスポーツの試合会場などが不足し、会場確保に苦慮している現状及び、トップチームが上位リーグで活動するための基準を満たした施設が岡山にはなく、このままでは地元トップチームは岡山の地でプレーできなくなるという状況について触れております。

各リーグにおける施設基準については、後ほどアリーナ競技3チームの皆様から、そして、アマチュアスポーツにおける会場不足の現状につきましては、岡山県スポーツ協会の松井副会長兼専務理事からお話をいただければと思っております。

よろしくお願いいたします。

1ページ目右側、2、計画地の概要、こちらは従前から変更ございません。

続いて、2ページ目に入ります。

3、基本コンセプトです。こちらも従前から大きな変更はございませんので省略いたします。

続きまして、2ページ目の右側、4、施設整備計画です。こちらは追加調査結果を反映し、最大収容者数1万人規模の内容と内容更新をしております。

続きまして、3ページ。5、利用計画についてです。追加調査の結果として、最大収容数1万人規模のアリーナが岡山市にとって最適な施設規模であること。また、先の検討会議において、安全面等を考慮し、アリーナ敷地と公園の一体的な利用を検討してはどうかとのご意見をいただいたことなどを踏まえ、敷地利用計画を整理いたしましたものでございます。

検討中のアリーナは、災害時において、一時避難施設や、物資の搬出入の広域拠点とすることを想定しております。

アリーナ計画地と北長瀬未来ふれあい総合公園との間にある市道北長瀬表町野田線の一部、図面上で、赤い楕円で囲んでいる部分になります。こちらを一部廃止することで、アリーナのイベント時などの平時はもとより、災害時における平面での安全な移動や、公園との一体的な利用が可能となります。

また、あわせて周辺道路の整備を行うことで、周辺環境への配慮や、交通インフラ機能の強化を図ります。

続きまして、6、交通についてです。追加調査の結果では、自動車の最大来場台数について、来場者の県内割合が高いトップチームの試合開催時に、約1,000台が想定されるとなっております。

公園内には、合わせまして1,068台の駐車場がございますが、公園利用者も利用することから、公共交通への転換策を中心とした、各種施策の検討が必要とされております。

続きまして、7、概算事業費についてです。こちらは、追加調査の結果であります概算事業費275から280億と掲載しております。

事業費については、公園との平面での一体利用により、ペDESTリアンデッキが不要になることなどの減額が想定される一方、新たにアプローチを整備するための費用や、試算した際の建設単価が令和6年7月時点のものであり、今後、資材価格や、労務単価等の上昇が見込まれることから、それらを踏まえた見直しが必要になると考えております。

続きまして、4ページになります。8、事業採算性については、追加諸調査の結果を記載しております。

年間支出見込み4億3,100万円に対し、年間収入見込み4億1,400万と、貸館収入だけでは若干の収入不足の見込みとなっておりますが、貸館収入の他に自主事業や物販での収入、ネーミングライツ等の広告収入等による収入増を期待できることから、本事業は採算性を十分に有するものと考えられます。

続きまして、右のページ。9、事業手法についてです。こちらは本会議のメンバーでもあります、三浦教授を座長に意見交換会も実施し、独立採算の実現に向けて、民間ノウハウを最大限に活用できるPFI事

業の中でも、BT+コンセッション方式、こちらを検討していくこととしております。

続きまして5ページになります。10、経済波及効果(20年間)こちらにつきましても、追加調査の結果を掲載したものといたします。

年間約47万人の来場者数の想定に基づき、岡山県内に20年間で2,800億円を超える大きな経済効果が見込まれるとされております。

続きまして右のページです。11、事業スケジュール。こちらにつきましては、事業実施を判断したのち、要求水準書、いわゆる仕様書になりますが、こういったものの作成をはじめ、事業者の募集及び選定に約2年、その後、事業者が決定した後、設計、建設に約5年程度を要し、完成には7年程度必要という見込みを示しております。

なお、こちらの期間につきましては、事業実施者からの提案により短縮される可能性も想定しております。

続きまして、12、財源内訳についての考え方についてです。こちらは4月の検討会議において、概算事業費を280億円とした場合の財源計画についてご説明した内容を掲載しております。

本日は、この財源計画について、岡山市の財政へ与える影響も含め、別紙により詳しくご説明いたします。

資料3、アリーナ整備事業の財源計画と、次のページの解説資料をご覧ください。

資料3の上段の表について、概算事業費280億円のうち、まず国の補助対象事業費は180億円であり、その2分の1の90億円が、防災・安全交付金として、国からの補助金が交付される見込みとしております。

国からの補助金90億円を除く残りの90億円については、発行額に対して約2割が交付税として国から支援される、公共事業等債を活用し、81億円、一般財源が9億円となっております。

補助対象外の100億円の財源につきましては、寄附金等で50億円。残りの50億円は、一般単独事業債を活用し38億円、一般財源が12億円となります。

以上から、アリーナ整備にかかる岡山市の実質的負担額について、まず、事業費280億円について必要となる、建設期間中の一般財源は、21億円まで縮減されます。

なお、起債額にかかる実質負担額は、単純計算で119億円から、交付税算入額18億円を差し引いた101億円となり、返済期間と、毎年の元金返済額は、30年間で年3.4億円となります。

今回、この3.4億円について、実質公債費比率への影響を試算しております。

まず、実質公債費比率についてですが、こちらは、市債発行に伴う毎年の償還金について、交付税算入額を差し引いた、市の実質的な負担額が、市税等の一般財源の規模、いわゆる標準財政規模に対して、どの程度の割合を占めているかをあらわすものとなります。

市債発行に伴う財政への影響を図るものであり、財政の健全化指標として、大きな要素を占めるものとなっております。

資料のグラフの通り、岡山市の当該比率につきましては、交付税算入のある有利な市債活用を徹底することによって、平成25年度以降大きく改善しており、令和5年度決算では5.6%と、政令市平均6.8%を下回る水準まで達しております。

直近、令和6年度決算においても、5.7%と、良好な状況を維持しております。

今回、アリーナ整備事業に係る市債発行によって生じる償還金、3.4億円の实質公債費比率への影響につきまして、試算の結果、0.16%の増加となっておりますが、今後、過去の大規模事業において発行した市債の償還が完了していくことや、交付税算入のある有利な市債の活用の徹底の効果によって、実質公債費比率が減少していることを考えると、当分の間、政令市平均以下の水準で安定的に推移すること

が可能と見込んでおります。

以上が、アリーナ整備事業の財源計画についてのご説明となります。

それでは最後になりますが、計画概要の資料の5ページに戻っていただき、財源計画の次の外観イメージとなります。

こちらは、追加調査の結果により、1万人規模に拡大したことを受けまして、令和7年2月補正予算を活用し、作成いたしました外観イメージとなります。

事務局からの説明は以上となります。

(大森座長)

はい。特に財源の計画って、なかなか民間企業をやっている方にはわかりづらいんじゃないかなと思います。

資料3を若干私が補足させていただきますと、一般財源というのは、毎年直接市がお金を使う、その額なんですね。それでいくと、21 億円ということになっています。これが建設自身が3年間ぐらい続くということでもありますから、本当は若干の山谷はあるんですけれども、平均すると、毎年7億円払わなければならないということでもあります。それが1つ。

それから、あとは民間でいくと、やっぱり借金をする。これを起債と呼ぶんですけど、起債の中で、国からお金が返ってくる。それを地方交付税と呼んでいます。地方交付税以外は、我々が払っていかなければ、償還、返していかなければならない。これが、このように大きな建物でいくと、30 年で返しなさいということになっているわけがあります。

で、起債の部分は全体で処理をしていきますから、もちろんアリーナの起債にはかかってはくるんですけど、全体として処理をしていく。これがどのぐらいの影響が出てくるかっていうと、0.16%上がる。この0.16%が、我々の財政にどういう影響を与えていくかっていうことを気にしていかなければならない。

今は5.7のところまでいっているんですが、今後は、この起債償還等々、または有利な起債を使っているということで、少し減少していく、そういう傾向にあるんで、0.16 っていうのは、財政に大きな、影響といいますか、もちろん大切に使っていかなければならないことは言うまでもないんですけれども、我々としては許容の範囲で対応できるんじゃないか。

こういう数字であるということを今、事務局の方から申し上げたところであります。少しわかりづらかったと思いますが、よろしくお願いいたしますと思います。

何か、今までの質問の中でわかりづらい点があれば、挙手いただければと思いますが、後でよろしいでしょうか。一括して。

それから、事務局の方は最後の資料はこれは説明はしなくて、それぞれの責任者の方からお話をしていただくということでいいんですかね。資料4は。

(事務局)

資料4はこの後岡山市から説明します。

その前に、先ほどご説明いたしました計画概要について、その中のリーグの施設基準等について、トップチームの方からご発言をお願いできたらと考えております。

失礼いたしました。

(大森座長)

失礼いたしました。それではリーグの施設基準等の補足について、トップチームからご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(高田氏)

失礼します。岡山シーガルズの高田です、今日はありがとうございます。

バレーボールのトップリーグの施設基準につきましては、状況は全く変わっておらず、2030 年には、ホームゲームの 80%を 5,000 人以上の会場でやらないといけないということが定まっております。

今のところは、3,000 人となっています。

その中で細かいところでは、VIP ルームですとか、ラウンジ、そのあたりに追加して、個室、1つ1つの座席が独立した観客席でなきゃいけないですとか、館内が全部土足でいけるような施設でないといけないっていうところも加わっております。

また、背もたれが必要だとか、あと洋式化のトイレが 80%以上だとか、数についても追加をされています。

ホームゲームの会場の確保、現状につきましては、ほんとにとっても苦しい状況です。

これは個人的にざっと作ってみた某アリーナの来年再来年の空き状況の資料なんですけれども、この緑のところが2年間で空いている土曜日、日曜日、びっくりするぐらい少なくて、この中で、私たちが仮予約ですとか、できないところが、逆になった場合、一般の方がその中から使わないといけないっていう状況が今あるので、そこも、私たちは地域密着と謳いながらも、皆さんに我慢していただいている状況なのではないかなと思っています。

先日トライフープさんと、トップチームの初めて共同開催したんですけれども、金曜日、前日の準備が朝6時から設営をして、当日の 12 時から試合だったんですけど、幸いじゃないんですけど、ストレートで試合が終わったもので、それでもぎりぎりトライフープさんの試合開始時間 18 時半に間に合ったような状況です。

それが終わって、シーガルズの選手スタッフ全員が、撤去作業して、まず体育館からシーガルズのものを全部出して、そのあとトライフープさんの設営をしたんですけど、ちょっとやっぱり負担は大きかったというのが感想としてあります。

施設基準につきましては、厳しい 2030 年というところは全くブレておりません。

(大森座長)

ありがとうございました。それではトライフープさん、よろしくお願いします。

(中島氏)

トライフープの中島です。いつもありがとうございます。

B リーグ、バスケットの方はですね、まず私もなんですけれども、来シーズンから実質、1つ上のカテゴリーである、Bリーグワンの方に参入していきます。新リーグ変更に伴い。

そして、1つ上のカテゴリーに上がるので、もうさらに1つ上がトップリーグの B プレミアになります。その B プレミアに我々は参入していきたいと考えています。

そうなったときのBプレミア参入への条件の主要なところが、5,000 席以上の背もたれ付きの座席、そして、VIP エリア・ラウンジの設置、次に大型映像機器、そして安定したインターネット回線、さらに年間 89 日以上のホームゲームアリーナとしての稼働、こういったところが必要になってきます。

ハード面から稼働日数の確保まで、現状では充足できないことが多々あります。

さらに、来期から参入する B リーグワンに関しても、シーガルズ様と同じように、会場の確保というのがすごく困難になっています。

現在、ホームアリーナとして使っているシゲトーアリーナは、私たちのようなプロ興行は、利用許可基準が最も低く、全国や中国大会出場を決める県大会よりも下になっています。

中四国の中心で、交通の便が良いこと、駅前等でアクセスがいいことから、多くのスポーツの大会がシゲトーアリーナで組まれており、このような大会が決定したころには、空き状況が少なく、厳しい状況になっています。

高田さんから言っていたように、同日開催などを行って、何とか工夫を凝らしてギリギリの運営をしています。

私どもは本当にシゲトーアリーナの使用状況が確約されていないので、毎年、ライセンスの条件をクリアできるかヒヤヒヤしています。

新アリーナが建設されて、先ほど述べた、すべての条件がクリアして、クラブとして、トップリーグである B プレミアをめざせる状況にぜひしていただきたいなと思っています。

私からは以上です。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

それでは、岡山リベッツさんお願いします。

(白神氏)

失礼します。岡山リベッツの白神です。

現在 T リーグの方には明確な施設基準はありませんが、今シーズンから張本智和選手がチームに加入したことで、これまで、やっていた会場であれば岡山武道館が入りきれないほどの多くのお客様にお越しいただくようになっています。

そういった意味では、やはりライブでより多くの方が同時に観戦できる新しいアリーナは、岡山リベッツだけではなく、岡山のスポーツ界全体にとって必要だと感じています。

また、岡山リベッツとしては、卓球で岡山を盛り上げるという意味から、リーグ戦やプレーオフだけでなく、テレビで放映されている世界卓球だったりとか、世界シリーズの WPP などの世界最高峰の大会を岡山で開催したいという思いもあります。

実際に、T リーグや日本卓球協会の関係者にこのアリーナ構想を説明したところ、岡山での開催に興味がある、前向きな反応をいただいております。

こういった夢を実現するためには、国際大会を受け入れられる国際基準にも対応できる、新しいアリーナの存在が不可欠だと思っております。

私たちチームとしても、試合会場で今日流した動画などを放映するなどして、より多くの方にアリーナ建設の必要性を知っていただきたいと思っています。

引き続き岡山にリベッツとしても頑張っていきますので、岡山の街をより一層盛り上げるために、岡山市にはぜひ早期事業の実施の決定をお願い申し上げたいと思います。

以上です。



(大森座長)

はい。ありがとうございました。

それでは、昨年の5月に、岡山県バスケットボール協会、また、ハンドボール協会、バレーボール協会、卓球協会などから、アリーナ整備について、アマチュアの立場からご要望いただいているところであります。

今回は、松井副会長兼専務理事がご出席をいただいておりますので、アマチュアの立場からご発言いただければと思います。

(松井氏)

はい。

座長すいません。今日実は、私どもの総合グラウンドについての資料をお持ちしておりますので、配布させていただければと思います。

(大森座長)

どうぞ。お願いします。

(事務局)

事務局からお願いがございます。

ただいま配布をしている資料は、協会様の内部資料でございます。

撮影については、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

あと、アリーナのメンバーの皆様につきましては、会議終了後に、裏返して机の上に置いておいていただきますようお願いいたします。会議終了後、回収をさせていただきます。

以上でございます。

(松井氏)

もう皆様方に配布されましたでしょうか。

改めまして岡山県スポーツ協会の松井と申します。

私どもの業界は、前回、前々回組織の概要を申し上げましたが、改めて、県下62の競技団体様、そして、県下26の市町村のスポーツ協会に加盟をいただいております。

総じて20万人強の会員を擁しております。

お手元の配布資料につきましては令和6年度並びに令和7年度の総合グラウンドの各施設の利用状況でございます。

マーカーで示しております、これが先ほどのチームさんが言われる、シゲトーアリーナ、それが体育館かアリーナかというのは、私もよくわかりませんが、名称ではシゲトーアリーナの稼働でございます。

使用日数の欄を見ていただきますと、1枚目は本年度4月から9月末までの利用日数です。ちなみに、岡山県総合協力事業団という県の内部組織が管理をしておりますが、年末年始の7日間を休館日としておりますので、ほぼ毎日、様々なスポーツであったり文化活動であったり、本日も利用組合の全国大会なんかで活用をされております。

2枚目をお開きくださいませ。2枚目のマーカーを入れているところは、先ほど申しました年末年始の休館日を除きますと、もう365日から休館日を除きますと、ほぼほぼ毎日が利用されているという状況。

ということは、もうこれ以上申し込んでも利用ができないというような現状がございます。

私を含むプロチーム、トップチームの皆さん、そういうところで、環境整備、施設の利用、活用を、もうこれ以上できないなということで、本当に困っている状況でございます。

1つは会頭さん、商工会議所メンバーさん、経済界、皆さんこういうことを、どう感じられるかなということで、今日はお示しをさせていただきました。

さらに申しますと、私どもが最も重要視しております、国民体育大会、今現在、国民スポーツ大会と名称を変えておりますが、それに対しての中国ブロック大会を5年に1回、開催をしております。

来年度が開催の、時期でございます。

これはチームスポーツでやりますんで、正式に30競技で、15種目がアリーナで試合を行うようになっておりますが、まだ时期的なことは確定しておりません。

先ほど申しました15種目。それを青年男女、少年男女やりますんで、既存のコートではもう不可能。

一堂に開催するブロック大会っていうのは中心日を設けるんですが、同時期に開催するということは不可能なんで、中国5県の会長、副会長、専務理事会で、もう時期をずらして、岡山ではもう仕方なく開催するということで、他の4県に大変ご迷惑をお掛けしてる状況がございます。

さらに申しますと、皆様方もご承知だと思います、全国高等学校総合体育大会。全国中学校総合大会。

これも、今までは47都道府県の単県開催だったんですが、もうブロックで、全国の9ブロックで開催しようという動きになっております。

従いまして、8年から9年に1回の割合で本県で開催するという。

そうすると、もう施設が足りない状況なので、これから各加盟団体、いちバレーボール協会が全国大会を、アマチュアの全国大会の大会を引っ張ってきても会場がもうないということです。

それが岡山県の現状でございます。

私どもスポーツ協会は、そういうことにおいて、今回、岡山市アリーナ構想ということで、本当にありがたいなと。これでスポーツチームはさらに強くなる、そして子供たちが夢が描けるような、環境整備ということを力強く期待しております。

ただ、今回の新アリーナの構想について、プロスポーツとかエンタメが、プロスポーツが駄目だよとか、ちょっと自粛しなさいっていうことじゃないんですが、そのプロスポーツを見て、元気を醸成する、プロスポーツのパフォーマンスを身近に感じて、子供たちが夢を持つ。

それはいいんですが、それとエンタメがあまりにも先行し過ぎておるんじゃないかと。

岡山県スポーツ協会は先ほど言いました、20万人強を会員を有しております。

さらに申しますと、岡山市の皆様が、市民のレクリエーション的なスポーツ団体もでございます。

そして、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、様々な体を動かし、体を動かすことっていうのはスポーツの定義でございます。

そういうことも含めまして、市民が一体となって、トップ選手が活動したり、パフォーマンスが盛り上がった、その会場で、様々なレクリエーションの団体であったり、競技団体であったり、学区の運動会があったであったり、そういうことが、そのアリーナで活動できるんだよ、市民一人一人のための施設を整備してるんだよっていうところ。

エンタメと、トップチームと、市民一人一人の体を動かすことがスポーツの定義ですから、様々な活動が3つ集まって、アリーナっていうのは構想されているんだよと。

スポーツというのは、「する」「みる」「支える」という3つのカテゴリーの分野がございます。

「する」というところを、もう少し市民に対してのアピールを発信していただければ、していただいていると

思うんですけど、さらに強力に発信していただくと、我々が望むアリーナ構想が、しっかりと岡山市民、県民にご理解いただいて、スピードを増して、完成ができるんじゃないかなと思っておりますので、是非ともよろしくお願いします。

(大森座長)

ありがとうございました。

今、必要性っていう視点からね、いろいろお話をいただきました。

トップチーム特にバレーボール、バスケットボールがこのままでは、この施設基準からいっても、岡山大で試合ができなくなってしまう。また、今でも日程の確保が本当に大変なんだという話を伺いました。

またリベッツさんからは、世界大会という、我々あまり考えたこともないような言葉を言っていただき、確かに張本選手が出るというだけで、武道館がいっぱいになっているというのは私も見て、驚いた次第であります。

アリーナができると大きく変化するだろうなと思いました。

また、松井さんからいろいろと話を伺ってきたんですけども、今日このように数字も示していただいて、1年の365日、ほとんどが使われていて、なかなかアマチュアの競技自身の大規模な試合ができにくくなっているという実情がよくわかったところであります。

我々、プロスポーツのためだけにアリーナをやっているわけじゃないということを少しお話申し上げて、スポーツ界全体が苦慮されている現状がよくわかった次第であります。

それから、先ほど私、財源の話は申し上げましたけれども、もう1つ、この場で随分議論が出たのは、周辺の道路の整備をどうするか。北長瀬の話であります、公園との一体利用を考えてはどうかということ、この場でご議論がありました。

冒頭でも少し話をさせていただきましたけれども、事務局中心に関係機関と検討を重ね、具体的な構想をまとめさせていただいたところであり、よろしくお願いをしたいと思います。

今までの説明について何かご質問ございますでしょうか。

松井さんからは経済界に対してのお話もありましたが、よろしいですか。

では、次に、寄附金の状況についてご報告させていただきます。4月30日の検討会議での話の後、経済界、トップチーム、市の3者で寄附金募集について本格的に動き出したところであります。

まず、寄附金の募集状況について、岡山市から説明をさせていただきます。岩田局長お願いします。

(岩田氏)

はい。失礼いたします。

スポーツ文化局の岩田でございます。

それでは、寄附の状況について全体像をご説明させていただきます。

資料4をご覧ください。

岡山市、商工会議所、トップチーム3チームで、453社へ訪問して、重複もございますので、下の結果のところに書いていますが、合計で351社へ事業内容の説明と、寄附のお願いに回っております。

この依頼させていただいた351社のうち、11月11日、昨日時点で、90社からの寄附の内諾をいただいております、総額として、資料の一番下書いておりますが、27億1,410万円と現在なっております。

なお、アリーナ事業へは賛同するが、会社として寄附行為を行っていないとか、経営面から難しいという企業もございますが、まだ回答いただけてない企業227社についても、アリーナ事業については賛同する、

寄附についても前向きを検討いただいているとお聞きしております。

今後も、様々な機会を捉えまして働きかけを行ってまいり、目標に近づいていけるよう頑張っていきたいと思います。

全体の報告としては以上になります。

(大森座長)

はい。

ありがとうございました。

それでは、松田会頭よろしくお願いします。

(松田副座長)

はい。寄附の状況について、今、岡山市のほうから説明がございましたけれども、私ども経済界としても、多くの会社、主だった会社を随分回らせていただいております。

先般、商工会議所の方から、50 億が民間も含めて不足額をどうするかというのを市と議論しているところでございますけれども、どれだけ集めるかということじゃなくて、どこまでいけるかということで、私ども活動しておりますけれども、その 50 という数字に対しては、約6割方は目星がついたというように発言をさせていただいております。

今日の発表があった 27 億 1,410 万円、これは確約をいただいているという数字でございますので、主立ったところで、もう少し検討させてくれということを含めれば、6割は数字として見込めるということで、発言をさせていただいております。

これから、個人の寄附とか、あるいは個人のふるさと納税とか、そういった設定もしていただきますし、いろいろな角度から、岡山市外の会社にもお願いをして参る所存でございますので、概ねその6割方以上のものは確保できる見込みだと私は考えております。

以上でございます。

(大森座長)

それでは、トップチームからもお願いします。まずはシーガルズさん。

(高田氏)

はい。シーガルズの方は 44 社回らせていただいております。

ほぼ前向きに検討するということなんですけれども、これから金額の方、実際にお聞きして参りたいと思います。

(大森座長)

ではトライフープさんお願いします。

(中島氏)

トライフープとしましては、約 60 社程度の企業様にアプローチし、約2割程度の企業様に納税の確約をいただいております。

残りの8割の企業様のうち、7割程度の企業様は、アリーナの話が具体的にになれば前向きに考えるとい

うのがほとんどの意見でございますので、話が進んだ段階で、もっともっと寄附金が増えてくるのかなというのは肌感で感じています。

僕自身も、さらにこの寄附金を募るということはがんばっていきたいと思っています。

以上です。

(大森座長)

はい。リベッツさん、お願いします。

(白神氏)

岡山リベッツとしては、ちょうど寄附金募集の開始とシーズン開幕の時期が重なっていたこともあり、スポンサー企業への訪問件数はまだそれほど多くはないんですが、ただそういった中で、もう予想を上回る多くの企業様から大口のご支援を検討いただいております、すでに口頭ベースではあるんですが、岡山リベッツからお願いした企業から、回答だけでも総額3億円を超える寄附の意向をいただいております。

これは、地域企業の皆様が岡山の新しいアリーナに大きな期待をしてくださっている証だと、我々感じております。

まだこちらからご説明できてない企業様も数多くありますので、もし事業の実施が正式に決定すれば、その支援規模は数倍に拡大できる手応えを我々は感じておりますので、引き続き頑張ってまいりたいと思います。

以上です。

(大森座長)

はい。ありがとうございました。

現在、経済界、トップチーム、そして岡山市を合わせると351社に依頼しているわけでありまして。90社から約27億もの寄附の申し出をいただいているということで、アリーナ事業への期待のあらわれと考えております。本当に感謝を申し上げる次第であります。

先ほどお話いただいたように、これからもさらにみんなで寄附金募集を行い、より多くの企業からご支援をいただきたいと思います。

ここまでの議論でありますけれども、皆さん方にあまりご意見、ご質問いただく時間を取れなかったんですが、とりあえず時間の関係もありますので、まずは学識経験者3名の方からご意見をいただければと思います。

(三村氏)

はい。ありがとうございました。岡山大学の三村でございます。

さかのぼりますと10年ぐらい前になります。

岡山シーガルズの顧問のご依頼を頂き、それからお手伝いするようになりました。

当初の課題は、岡山シーガルズには専用の練習場がなくて、あちらこちらで練習するしかない環境ながら、地域の支えにより、トップリーグの大企業率いるチームを相手に準優勝を2回しています。

そこで、日本一を目指すための練習環境を整備するための支援ということで、大学からの兼業ということで、何度か経済界と共に、市長にも企画書を出させていただきながら、お手伝いをさせていただいてきました。

前回の検討会議でも申し上げました通り、岡山市の総合計画や創生総合戦略の中で、大森市長はスポーツ振興をご就任から重要政策として掲げておられますので、リベッツさん、トライフープさんを含めて、トップチームの指導で子どもたちが使え、アマチュアの皆さん方も一緒に使えるアリーナを軸として、プロチームがリードしながら市民のためのアリーナ建設が必要だと承知してサポートして参りました。

岡山シーガルズを例にとりますと、年間 200 回ぐらい、岡山県内の子どもたちを対象に「子どもバレーボール教室」を実施、さらに北海道から九州まで、トップを目指す中高生が岡山の地に来て、宿泊をしながらシーガルズの指導を受けています。

加えて、岡山市や経済界のサポートの下で、通算 10 回以上、世界からナショナルチームを岡山市へ招聘しています。

こういう流れを加速させるためには、どうしてもアリーナは必要ということです。

そして何よりも、松田会頭の口癖ですが、次の世代にきちんと夢と希望というバトンを渡す責任が私達にはあります。

そのためのインフラを整備していく。

その際には、やはり、従来の体育館ではないアリーナを目指すことが大切だとの思いでやってきました。

本日、素晴らしい映像や資料を拝見させていただいて、「本当にここまで来たのだ」と、とてもうれしく感じました。

最後に、西日本豪雨災害のときに、シーガルズの事務所があった東区平島団地が被災をして、シーガルズの選手が団地の復旧活動に出向きました。

現在、北長瀬の公園エリアが防災拠点になっています。アリーナ建設を含めて、防災の拠点の話もきちんと盛り込んでいただいています。

是非とも市民の合意を含めて、何とかこのアリーナ建設を前に進めていただければと思っているところでございます。

以上でございます。

(大森座長)

それでは、三浦委員お願いいたします。

(三浦氏)

はい。

先ほど、賛同する企業がたくさん増えているという話を聞きまして、大変うれしく思いました。

ということは、多くの方々が徐々に徐々にこのアリーナに期待をしているんだな、ということを感じました。

事務局を初め、関係者皆さん本当にありがとうございます。

引き続き、みんなで力を合わせてアリーナができたらと思うわけです。

エンタメや、このスポーツという熱狂する場が人を元気にするというのは、もうみんな誰もがわかっていると思います。

我々としては、できればこれを契機に、移住者が増えたり、若者の流出が止まったり、逆に若者たちが来てくれるような岡山になっていったら、とてもありがたいなと思っています。

皆さんも感じたと思いますけれども、先日のドジャースの日本人3人の活躍により、アスリートの人間

性・姿勢が世界的に高く評価を得られています。

先ほども世界大会の話がありましたが、日本のスポーツを通じた人間教育に世界が注目し始めました。

我々環太平洋大学は、嘉納治五郎記念スポーツイノベーションセンターというのを立ち上げまして、スポーツを通じた人間づくりをアピールしたいと思っています。おそらく、今後は岡山にも世界からスポーツを通じた来訪者方が増えるだろうと期待しています。赤磐にホッケー場があって、ニュージーランドやカナダの方がいらっしゃるんですね。日本に来てとてもいい評価をして帰っていかれて、また来るというような話をしています。

ですから、岡山はポテンシャルがあるんだということを我々はつくづく感じていますので、是非ともこのアリーナ構想を実現させ、次の世代につなげるようなすばらしい施設になればいいなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上です。

(大森座長)

では、林委員お願いいたします。

(林氏)

理科大学の林でございます。

まず大森市長、松田会頭をはじめ、アリーナ整備事業にリーダーシップを発揮いただいている皆様方に、心から感謝と敬意を申し上げたいと思います。

さて、冒頭に一点申し上げたいことがございます。

先日ワールドシリーズで優勝したロサンゼルスドジャース、先ほど三浦先生からお話もありましたが、2024年の総収入、ドジャースとして、約10億ドル。およそ1,520億円です。

また、イングランドサッカープレミアリーグのマンチェスターシティというクラブがあるんですけれども、こちら2023-2024年シーズンの収入が1,425億円と言われています。

一方でファジアーノ岡山の年間収入は、昨年度は約20億円、岡山シーガルズ、トライフープ岡山はそれぞれ4億円と聞き及んでおります。

一見すると大きな差に見えますが、スポーツ庁の資料によれば、30年前にJリーグが開幕した当初、プレミアリーグやメジャーリーグとの、日本の各リーグとの市場の規模の差はそれほど大きくありませんでした。

つまりこの30年間で大きな差が開いたということです。

このことが示すのは、スポーツ産業の持つ成長余地そのものということと言えます。

裏を返せば、まだ日本のスポーツビジネスに極めて大きな可能性が眠っているというように考えております。

本年4月に発表されたスポーツ庁と経済産業省が連携して開催したスポーツ未来開拓会議のまとめでは、国内のスポーツ産業を5兆円から2030年までには15兆円規模へ拡大するという目標が掲げられております。

特に、成長が期待されている分野として、1、まちづくりと一体となったスタジアム・アリーナ整備が明記されています。

岡山市のアリーナ建設も、トップスポーツチームの活動拠点整備と言うことに留まらず、これを契機に、スポーツ産業を岡山の新たな地域産業の柱と明確に位置付け、出発点とするべきではないか。

先ほども会頭もおっしゃっていましたが、スポーツ産業というものを柱にしていっていただけないだろうかと思っています。

行政と経済界が一体となり、スポーツ・ウェルネス・ウェルビーイングを推進することで、市民の健康・幸福度の向上に寄与すると同時に、そこで得られた知見や商品・サービスを国内外に展開していく。

そうした循環が生まれれば、住民満足度の向上、産業創出、若者の雇用拡大や所得向上にも繋がると考えます。

そのためにも、岡山市にはスポーツ文化局と産業観光局が連携した、岡山スポーツ産業ビジョンというものを、ぜひ検討いただけないかと思っています。

また、経済界の皆様におかれましては、アリーナ建設への寄附に心から感謝を申し上げるとともに、これを機に、スポーツウェルネス分野への新規事業の展開をより積極的にお願いしたいと思っています。

トップスポーツチームは、限られたリソースの中で、職員や選手は懸命に活動していただいていると思っています。

今後の成長のために、資金、人材知的支援を含む、リソース投入の拡充として向上が不可欠です。

ぜひ、経済界の皆様には、資金提供にとどまらず、各チームの価値共創パートナーとして、より戦略的なご参画をお願いしたいと思っています。

私自身、岡山からスポーツ産業創出するという機運をさらに高めるために、民産官学金言の各界が連携する、仮称ではございますが、おかやまスポーツ未来開拓会議となるものの開催準備を進めているところでございます。

ぜひ皆様とともに、スポーツでもっとわくわくする岡山、ということで、このビジョンを実現して参りたいと存じます。

私から以上です。ありがとうございました。

(大森座長)

3人の有識者の先生方、本当にどうもありがとうございました。

今までの説明、そして、有識者の方々の、思い、こういったものを踏まえて何かご意見ございますでしょうか。

はい。神崎さん。

(神崎氏)

岡山県経済団体連絡協議会の神崎でございます。

これまで6回の検討会議を重ねて参りまして、市民からもさまざまな意見もございますが、私ども経済界の一方的な要望ではなくて、スポーツ界の抱えている問題、いかに岡山を活性化するかなど、エビデンスベースで、1歩1歩丁寧に、議論はされてきた、前向きに検討をしてきた、というように理解をしています。

当初は、それぞれのスポーツチームのレギュレーションに基づく5,000人規模ではありました。

しかし、他都市の状況も考えますと、1万人規模が適当という結論にも至っております。

これは岡山市が、中国四国の中核都市としての文化スポーツ拠点をどう築くか、先ほどの林先生からの話もありましたが、重要な転換点になるとも感じております。

さらに大きな転機が訪れています。

競技も違いますし施設も違いますが、ファジアーノ岡山も、J1昇格、そして先日の残留決定です。

ファジアーノのスタジアムについて、現在の1万5,000人規模のスタジアムが毎試合満席という状況で、



チケットが取れない人も多いということもあって、新スタジアムの署名活動も 50 万人を超えました。

市民のスポーツに対する熱量というものは、もはや一過性ではないというように思います。

アリーナとスタジアム、両者は岡山の未来を形づくる2つの柱になりうる事業だと思います。

それぞれ別々に進めるのではなくて、都市としての戦略的な一体的な整備を視野に入れるべきだと私は思います。

もちろん、スタジアムを検討することによって、このアリーナ整備事業を、ここで踏みとどまるということではありません。

アリーナ整備を前に進めると同時に、スタジアムの整備も視野に入れるべきだと思います。

個人的な構想になりますけれども、北長瀬未来ふれあい総合公園にスタジアムができることになれば、一大スポーツパークとして全国有数の競争力を持つエリアになると思います。

夢物語のように聞こえるかもしれませんが、ファジアーノはJ1昇格以来、ここで J1 定着ということが現実に見えてまいりました。そうした夢が現実になってくるんじゃないかというように変わりつつあると思います。

従いまして、本検討会議におきましても、例え別々の場所への建設であっても、新スタジアム建設という新たな条件というのも視野に入れながら、アリーナ整備を総合的に議論していくべきだと思います。

先ほど林先生が言われたような、新たな文化、経済の柱になっていくということの可能性を秘めているというように思います。

この検討会議で検討してまいりましたアリーナ整備ですけれども、立ちどまるのではなく、次のステージを見据えて進むという意識を皆様と共有できたらと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(大森座長)

ありがとうございました。

それでは高谷さんお願いします。

(高谷氏)

失礼いたします。

商工会議所の高谷でございます。

本当に各先生方のご意見、私たちもこれからの活動に、十分活用させていただきたいと思っておりますが、実は寄附金等々で回る中で、各県全体に関わる方ともいろいろお話をするんですが、まだやはり、アリーナというものの重要性であるとか、この枠組みであるとか、まだまだ説明不足だったなという反省があります。

本当に、私たちもこれから7年くらいかかるのですが、きちっと市民県民の方にこのアリーナの重要性、この進め方というものを丁寧に、行政の皆さん、また、チーム、また、学識経験者の皆さん、また、私達経済界が伝えていくということが、やはり重要であると実は考えています。

今日も非常に素晴らしいビデオができていました。

このビデオを使いながら、また今日、先生方のご意見ももう少しパンフレット等に重要性を、ポイントをもう少しかいつまんでわかりやすく、市民、県民の方に伝えていくということが、もし、大森市長がやるということになれば、さらに。

何となくお金集めが経済界の役割というように思われているのがちょっと残念なことで、私が行くとお金

を取りに来たぐらいに思われて、会頭もそうなんです、そういうことではなくて、会議所がなぜ、経済界がやるかということは、やはり、先ほどありましたように、新しい経済を、産業を作っていくんだと、ウェルネスであるとか、スポーツ産業であるとか、IT であるとか、いろいろとスポーツを中心に、いろんな産業だったり、もっと言えば、岡山と倉敷の中心にまた新たなにぎわいの場所ができるという、例えば問屋町や北長瀬で含めてもそうですが、これは本当にまちづくり、にぎわい創出。

だから経済界が、スポーツチームだけのためではなくて、市民、県民のために動いてるということを、しっかりと市民向けとか皆さん伝えていくということを、特に今日お集まりの皆さん、また今日メディアの方が特に来られてますが、メディアの方にも、県と市がどうのこうのということはどうでもいい話でありまして、はっきりと言いますが、そんなことよりも、市民県民がこれが必要なんだということを記事に書いていただければと思いますんで、私も全部ビデオ撮って、ぜひ皆さんの報道を見ていきたい。これは冗談ですが、ぜひ、みんなでこれを盛り上げていければと思います。

どうもありがとうございました。

(大森座長)

その他、いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、また最後に質問があればそこをお願いしたいと思います。

今回、岡山市が 221 社回ったというように書いておりますけれども、実は、その中でも、岡山市当局だけでなく、議会の方々にも動いていただいております。田口議長を始めとした議員のメンバーにも私は本当に感謝を申し上げるところであります。

そういう意味では、議会の議長という立場もありでしょうし、ここでご発言しにくい部分もあるかもしれませんが、ぜひ田口議長からご発言をお願いしたいと思います。

(田口顧問)

はい。皆さんご苦労様でございます。

まずは、大森雅夫の応援団長として、市長の応援団長として、選挙と一緒に戦ってきました。その中で、やはりアリーナの必要性、また要望、そういう声はしっかり届きましたし、聞きました。機運全体が盛り上がっているのは事実であります。

しかしその一方で、必要があるのかという議論もあります。

私は思うんですけれども、今さっきPR動画がありましたよね。例えば、リベッツの張本選手が、これは必要なんだよって言ってスマッシュをするような動画とか、我々が応援しているシーガルズやトライフープの選手がアリーナというものはこうですよっていうことを、選手目線で必要性を伝えるものなど、費用のかかることではあります、PR動画は必要ではないか。

やっぱり市民に対して、アリーナはこうですよということを、馴染みのある選手を起用するなどの方法で宣伝することも必要じゃないかなと思います。

また、高谷氏が今おっしゃったように、岡山市もスポーツを通じたまちづくりというのがものすごく大切になってくると思うんですね。

その中で、要するに「みる」、「する」、「支える」という、そのスポーツをする感動や、トップチームを市民一人一人が支えているんだという感動が生まれ、こうしたものをいかにまちづくりの中に反映していくか、それを新しいビジネスにしていって、より経済効果を増す、そういうアリーナなんだっていうことを、ぜひこ

れからもやっていきたいし、私個人としては、それを大いに語っていきたいなと思います。

ただ、ここから議長としてなんですけど、おそらく、いつかそうしたことは市当局の判断で、議案として議会に上程をしてくると思います。そのときに、議会の中では、懸念をする声もあると思います。

その懸念の声を無視するのではなく、やはりそれは市民一人一人から負託をいただいて、意見を言っているの、当局には丁寧に説明をしていただき、全会一致にはならないのはもうしょうがないとして、やはり最後には多数決を含めて、議会として結論は出していかなければならないと思っていますので、いずれ議案が出たときには、丁寧にそれぞれの市民の声を聞きながら、結論を出していきたいと思いますので、どうぞ今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

(大森座長)

このあたり、全体を通して松田会頭からご発言をいただきたいと思います。

(松田副座長)

皆さん、本当に今日は真摯なご議論いただきましてありがとうございました。

前に向かって進むという皆さんの意思がここで確認できたと思います。

また一方では、懸念を持たれている方々がいらっしゃるということも、私ども商工会議所も感じております。

そういった方々に対して、このアリーナの必要性、そしてスポーツ産業の岡山での活性化の必要性、そしてそれを取り巻く事業が、このアリーナができるということが決定されなければ、前に進まないわけでございまして、やるかやらないかの議論よりも、やるということが決まった後、これを使ってどうするかという議論に変えていきたいと思います。

何事も、箱がなければ中に入るものはありませんし、中に入ろうとする物が箱がなければ活躍できないわけですので、できるだけ皆さん方のご意見を取り入れながら、素晴らしいものに、素晴らしいアリーナに、そしてまた、先進的な世界で一番すばらしいといわれるようなアリーナが岡山にできることを祈念して、この会議、最後の発言とさせていただきます。

どうも皆さんありがとうございました。

(大森座長)

今後の方向について、私の方からも1つお話を申し上げたいと思います。

今日本当に様々な意見ありがとうございました。

特に、トップチーム3チームから、今の現状、どうしてもアリーナが必要なんだという話をさせていただきました。

マスコミ、メディアを通して、各市民には伝わっていたというように思います。

そして、松井専務からのお話、アマチュアスポーツも、実際上の試合を作っていくのは大変なんだと。ほとんど、今の運動公園のアリーナは満杯の状況で、新しく大きなことを仕掛けることがなかなかできない、というような実態も聞きました。

我々、何度かお話を聞いていたわけでありまして、今日、皆さん方からのお話、より一層胸に届くものがあつたところであります。

それから、経済界の皆さん、トップチームの皆さんもそうですが、本当にみんな各人が努力していただいて、27億円もの額を今、集めていただいたわけでありまして。

これはもう我々として予定したものの過半であります。まだ事業決定していないわけでありまして、実は私と接触している方も、白神さんがおっしゃったように、事業決定すれば、幾ばくかの額かは言われませんが、寄附はするよっていう方、多くおられるというのを聞いております。

そういう面では、事業決定というのは、1つの節目として、早晚やって、次のステップに行かなければならないのかなというように思っている次第であります。

それから、アリーナについて、様々なご意見を持っておられる方もいることは事実であります。

ただ、アリーナの、今日のような議論っていうのはほとんど伝わっていない、ないしはアリーナそのものが、どんなものかっていうのがわかっていないっていうような方も多いで、そういう意味で、我々も動画を作らせていただきました。

ぜひ、我々もどんどん活用していきますから、皆さん方も、この活用をしていただければありがたいなと思っております。

我々、このアリーナって一体何なんだろうという説明をよくするんですけれども、まとめていくと、きっかけはトップチームが今の施設基準では岡山で試合ができなくなってしまう、そして岡山から離れざるを得ない、というのがきっかけでありましたけれども、そうこうしているうちに、アマスポーツの今の現状、もう会場がほとんど取れないんだというような話も出てきたところであります。

そして、スポーツから採算性を上げていくためには、ライブであるとかコンベンションをやっていくと、これは岡山の地理的な特性から言えば、大きな産業化になっていくのではないかとということで、10年間で2,800億円もの経済効果があるということも出てきたわけであります。

ただ私は、金銭に変えられないものがあるんじゃないかと。三浦先生が少しおっしゃいましたけども、わくわく感とかね。

そして、心の豊かさみたいなものが、このアリーナを作ることによって出てきて、岡山への愛着とか誇りとか、そういったものに結びついていくのかなというように思っているところであります。

そういう意味では、この事業、我々にとっては必要なものだというように思っている次第であります。

今後のお話については、今日の会議のご意見を踏まえて、我々としては適切に対応していきたいと思えます。

よろしくお願いいたします。

締めた感じになったんですけど、ご意見あればぜひ。

よろしいでしょうか。

それではありがとうございました。

事務局から何かございますか。

それではないようなので、進行を司会に戻したいと思います。

(司会)

ありがとうございました。

以上をもちまして、第6回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

中ほどで配布いたしました資料につきましては、お手数ですが裏返しにして机に残していただきますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。